

中国揚州大学動物科学院から楊章平 院長、趙国琦 教授、包文斌 教授、耿拓宇 教授が平成30年2月26日(月)から3月3日(土)まで東北大学大学院農学研究科を訪問し、JSPS研究拠点形成事業の共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」に関する研究打合せ会議を開催した。

午前中の会義では、東北大学大学院農学研究科応用動物コースから、盧 准教授「The roles of inflammatory cytokines in rumen epithelial cells(ルーメン上皮細胞における炎症性サイトカインの役割)」、喜久里 准教授「Utilization of plant extracts for poultry production(家禽生産における植物抽出物の利用)」、上本 准教授「GWAS and genomic evaluation in pig and cattle populations(豚・牛集団におけるゲノムワイド関連解析及びゲノミック評価)」の研究紹介を行い、活発な意見交換が行われた。

午後の会議出席者は、東北大学大学院農学研究科から麻生 食と農免疫国際教育研究センター長、原田 副センター長(研究担当)、北澤 副センター長(教育担当)、白川 CFAIユニット長、盧 准教授、喜久里 准教授、上本 准教授、渡邊 助教、学生2名が参加した。会議では、楊 院長「The situation, protection and utilization of animal genetic resources in China」、包 教授「Regulation and molecular mechanism of TLR5 on resistance to E.coli F18 in weaned piglets」、耿 教授「Lipotoxicity, fatty acids and goose fatty liver」、趙 教授「ルーメン上皮細胞の永久化及び炎症因子に対してGPR41はSCFAsに影響について」の研究紹介があった。その後、質疑応答を行い、今後の共同研究に向けての有意義な討論を行った。また、今後も学生間交流の充実を図ることを再確認でき、今後の共同研究題目の推進方法に関しては大きな進捗があった。このような機会を提供していただいたJSPS研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝する。



午前会議集合写真

前列: 耿教授、趙教授、楊院長、麻生、包教授)
後列: 喜久里准教授、盧准教授、上本准教授)



午後の会議

原田CFAI副センター長のセンター紹介